

○一般社団法人 日本森林学会 2017 年度第 1 回（通算第 460 回）理事会 議事録

日時：2017（平成 29）年 4 月 18 日（火）13:05～17:15

場所：日林協会館 4 階 中会議室

開催者：中村太士

出席者：会長）中村太士，副会長）黒田慶子，田中浩，理事）堀靖人，竹中千里，福田健二，太田祐子，宮本麻子，正木隆，佐藤宣子，大河内勇，船田良，小島克己，井上真理子，監事）白石則彦，主事）細田和男，大橋伸太，久本洋子，小長谷啓介，古川拓哉，竹本太郎，橋本昌司，宮本和樹，事務局）稲村崇子，編集部）町田庸子，オブザーバー）箕輪富男（林野庁），網田克明（全林試協），小田智基（東京大学）

議長：中村太士

審議事項：

本理事会で議論・決定された事項は以下の通りである。

1. 2016 年度事業報告（案）

堀理事から提案され，国際学術交流の実績に関する記載の不足を補ったうえで，2017 年定時総会の承認を求めることになった。

2. 定款等の改正（案）について

常置委員会として広報委員会，企画委員会，選挙管理委員会，中等教育連携推進委員会を規定することを骨子とする定款および選挙規則の改正案が堀理事から提案され，主事の定数を 14 名以内と改めることも含め，2017 年定時総会の承認を求めることになった。また理事会内規，企画広報委員会内規，ウェブサイト編集委員会内規，「日本森林学会メールマガジン」発刊要領の改正が堀理事から提案され，提案の通り承認された。表彰規則については，学生奨励賞の業績の対象期間を拡大する方向で改正案を具体化し，2017 年定時総会の承認を求めることになった。

3. 2017 年定時総会の招集および公開シンポジウムの開催について

堀理事から，定時総会を 5 月 23 日 10 時から日林協会館で，公開シンポジウム「山・川・海の変貌と森林管理」を同日 13 時 30 分から同会場で開催することが提案され，提案の通り承認された。

4. 主事の委嘱について

総務担当の細田和男主事，JFR 編集担当の久本洋子主事，表彰担当の花岡創主事が 2017 年定時総会をもって退任するため，山川博美会員（森林総合研究所），小田智基会員（東京大学），木村恵会員（森林総合研究所林木育種センター）をそれぞれ後任として委嘱することが堀理事から提案され，提案の通り承認された。

5. 2016 年度決算（案）

竹中理事から提案があり，提案の通り 2017 年定時総会の承認を求めることになった。指定正味財産（大会開催引当資金）は約 106 万円の収入超過，一般正味財産（大会以外）は約 129 万円の支出超過であり，全体としては約 22 万円の収入超過であるとの説明があった。

6. 2017 年度予算の修正

2016 年度第 7 回メール理事会で承認済みである 2017 年度予算について，2016 年度決算を受け

ての修正案が竹中理事から提案され、提案の通り承認された。この際、予算として単年度で支出超過になっているのは好ましくないという意見があり、これに対し会計担当からは、予算、決算ともに年変動があり支出超過の年度もあれば収入超過の年度もあるという説明があった。会長からは、年変動はあるが支出超過の傾向があることを認識し、各担当ともに支出削減に努めるよう指示があった。

7. 日林誌, JFR, 森林科学のバックナンバー保管期間および印刷部数の調整

2015 年度監事監査の指摘を受けた冊子体（バックナンバー）保管費の節減のため、竹中理事から、発送業者での保管期間を3誌ともに1年間に、事務局での保管期間を5年間にそれぞれ短縮すること、また日林誌と森林科学の冊子体印刷数を削減することが提案され、提案の通り承認された。

8. JFR の Instruction for authors および転載許可申請に関する案内文の改訂

福田理事から、22 巻 1 号以降については著者の責任による訂正記事の掲載は著者負担によることとする Instruction for authors の改訂が提案され、提案の通り承認された。また、転載許可申請業務は、Springer 社から刊行された 21 巻 6 号以前も含め、今後はすべて Taylor & Francis 社が担当することになったので、ウェブサイトの案内文をそのように改めることが承認された。

9. 2016 年度林業遺産の認定

佐藤理事から、昨年 12 月の〆切までに 14 件の推薦があり、一部は追加資料の提出を求めるなど、林業遺産選定委員会による審査経過が報告された。新たな林業遺産として 7 件、既存の林業遺産に内容を追加するもの 1 件が提案され、提案の通り承認された。認定されたのは「伊豆半島の森林史に関する資料」「小石原の行者杉」「屋久島の林業集落跡及び森林軌道跡」「蒸気機関車『雨宮 21 号』と武利意・上丸瀬布森林鉄道遺構群」「初代保護林 白髪山天然ヒノキ林木遺産資源保存林」「木曾式伐木運材図会」「足尾における治山事業による緑の復元」および「吉野林業」（追加選定）である。

10. 学術大会における教育部門の設置とプログラム編成委員会内規の改正

小島理事から、これまでの理事会、プログラム編成委員会および第 128 回大会における「林政・風致・経営、観光・レクリエーション、教育分野のあり方検討会」での議論、教育分野の公募セッションが 15 年間継続している実績、また既存部門への影響が少ないことを踏まえ、第 129 回大会から教育部門を設置すること、またそれに伴うプログラム編成委員会内規の改正が提案され、提案の通り承認された。「観光・レクリエーション」については当事者の議論を踏まえ継続課題としたことが説明された。関連部門の部門キーワードや学生ポスター賞の審査グループについても第 129 回大会に向けて検討が必要との指摘があった。

11. 理事会議事録の承認

堀理事から、2016 年度第 4 回理事会・連携学会長合同会議、2017 度第 1 回メール理事会の議事録が提案され、提案の通り承認された。

12. 次回理事会の開催について

次回理事会を 5 月 23 日の定時総会前に開催することになった。

報告事項：

その他、以下の報告が行われた。

1. 第 128 回大会における学会企画の報告

黒田副会長から、昼休みの時間帯に開催された「大学院進学とその後の進路の選択—どのように社会に出ていくのか」に約 60 名の参加があったことや自由記載アンケートの概要が報告された。また、正木理事から「論文執筆や審査の経験を共有しよう Part2」について報告があり、他の口頭発表が行われている 17 時 45 分からの開始であったが約 50 名の参加があり、事後アンケートも実施したことが報告された。プログラム編成委員会林政、風致部門委員会の田中伸彦委員長による「林政・風致・経営、観光・レクリエーション、教育分野のあり方検討会」の概要報告が、小島理事から紹介された。

2. 社会連携担当の報告

黒田副会長から、科学技術振興機構主催のワークショップ「フューチャーグリーン」が 12 月 22 日に開催され、日本森林学会として黒田副会長が報告したほか、森林総合研究所からも報告があったことが紹介された。

2. 総務担当からの報告

堀理事から、日本学術会議会員および連携会員の候補者 5 名を当学会から推薦したこと、応用森林学会の発案により当学会として応募していた平成 29 年度 JSPS 科研費（研究成果公開発表 B）の交付が内定したこと、公益財団法人 PHOENIX 研究発表支援事業に対し 13 名の推薦リストを提出したこと、および会員数の動向が報告された。

3. 日林誌編集担当からの報告

丸山理事の代理として堀理事から、短報を 2 ページ超過まで認めるなど実態に合わせて投稿要領、執筆要領および現行審査の基本方針をそれぞれ改訂したこと、新たに山本美穂会員（宇都宮大学）を編集委員に委嘱したこと、Web of Science と Scopus 収載に向けた対応状況などが報告された。また、第 128 回大会の企画シンポジウム、テーマ別セッションのコーディネーターに、日林誌、JFR、森林科学の 3 誌編集委員長の連名で、特集号の企画提案を呼びかけることになった。

4. JFR 編集担当からの報告

福田理事から、JFR の 22 巻 1 号および 2 号を Taylor & Francis 社より刊行したこと、2017 年 3 月までの 12 か月間の投稿件数は 324 件で、うち受付リジェクトが 292 件と非常に多かったこと、2016 年の IF は低下する見通しであること、被引用数の多い論文は中国の著者によるものが多い傾向であること、などが報告された。共著者全員が Editorial Manager 上で承認しないと審査に入らないことや、超過ページ代が学会ではなく T&F の委託業者から請求されるようになったことを改めて会員に周知することになった。

5. 森林科学編集担当からの報告

太田理事から、第 80 号「特集：これからの低コスト再生林技術—地域によるカスタマイズと現場からの提案（仮題）」の編集を進めていることが報告された。また 2017 年 3 月でサービスを停止した CiNii から J-Stage への移行の作業状況が報告され、現時点で第 77 号以降が J-Stage で公開されているが、76 号以前については印刷会社への外注およびアルバイト雇用による作業で順次対

応していくこと、そのための費用が2017年度予算に計上されていることが説明された。

6. 広報・ウェブサイト編集担当からの報告

宮本理事から、メールマガジンの発行、アドレスリストの更新、ウェブサイトの更新および閲覧状況について報告があった。またセキュリティ強化のためウェブサイト全体を暗号化すること、入会・異動フォームにSSL証明書を導入すること報告された。その費用は2017年予算に計上されており、サイト全体の暗号化は初回のみで5万円、SSL証明書は毎年10万円が必要であることが説明された。

7. 表彰担当からの報告

正木理事から、第128回大会において学会各賞の授賞式および受賞者講演を行ったこと、学生ポスター賞は191名の応募のうち21名に授与したこと、また、今回は会期中に学生ポスター賞の授賞式を行ったこと、当学会から推薦した中村太士会員が日本農学賞を受賞し、4月5日東大山上会館で授賞式、受賞者講演、祝賀会が開催されたことが報告された。日本学術振興会賞は会員からの応募がなかったことが報告された。また、前回理事会で議論になった学会各賞の選考方法の抜本的見直しは、2018年度にむけて検討を進めたいとの意向が正木理事より示された。

8. 企画、林業遺産担当からの報告

佐藤理事から、代議員メーリングリストを通じて2017～2018年度林業遺産地区推薦委員の推薦を募り、会長の指名を受ける予定であること、2017年度の林業遺産選定スケジュール、既存の林業遺産の追加や変更に対応した内規の改正を予定していることなどが説明された。また、日本農業遺産や林野庁との位置関係について議論があった。

9. 学協会連携担当からの報告

大河内理事から、防災学術連携体に参加している委員の一人である坪山良夫委員が退任し、後任として玉井幸治会員（森林総合研究所）が委員となること、4月15日に第3回防災学術連携シンポジウム「熊本地震・1周年報告会」が開催され、日本森林学会からも報告したことが紹介された。

10. 木材学会担当からの報告

日本木材学会の近況について船田理事から、役員改選により6月から新体制となること、次回大会は京都府立大学で予定されていることが報告された。またJournal of Wood Scienceは昨年度に引き続きJSPS科研費（国際情報発信強化）の交付が内定しオープンアクセス化を進めていること、また出版社の変更を模索していることなどが報告された。

11. 国際交流担当からの報告

平田理事の代理として堀理事から説明があり、2月24日にKorean Forest Society主催の国際シンポジウムに田中副会長が出席し「日本における森林政策への研究開発の貢献」と題する講演を行ったこと、Chinese Society of Forestryが2017年4月に100周年を迎えたことに対し、日本森林学会から祝辞を送付したことが報告された。

12. プログラム編成担当からの報告

小島理事から、第129回大会にむけたプログラム編成委員会委員の交代が報告された。

13. 中等教育連携推進担当からの報告

井上理事から、第 128 回大会における第 4 回高校生ポスター発表の概要が報告された。発表件数は 16 校 19 件、発表会場に参加した高校生は 9 校 34 名で、発表当日の閉会式において、最優秀賞、優秀賞、特別賞としてそれぞれ 2 件ずつが表彰されたことが報告された。また、国土緑化推進機構「緑と水の森林ファンド」の助成により高校生への旅費の補助やポスター集の印刷を行ったこと、大日本山林会の支援により、北桑田高校製作による副賞の楯や参加賞のストラップ、書籍を贈呈したこと、全国林業短期大学校連絡協議会の協力により学校紹介等のポスターを 6 件展示したことも報告された。中等教育連携推進委員会の上村真由子委員（第 127 回大会運営委員）が退任し、新たに長井宏賢会員（高知大学、第 129 回大会運営委員）を委員に委嘱したことが報告された。

議事録作成者：堀靖人，細田和男